

令和7年度事業報告(案)

I-1. 遺骨収集事業報告

政府・自主による遺骨収集派遣

・第509次 硫黄島遺骨収集派遣(1次)

期間：令和7年7月1日(火)～7月17日(木) 16日間

参加者：阿部 叶芽(上智大4年)、竹島 潤(社会人)、一戸 弥生(社会人)

収容柱数：23柱

・第510次 モンゴル(ノモンハン事件)戦没者遺骨収集派遣

期間：令和7年7月23日(水)～8月8日(金) 16日間

参加者：新井 捷壬(東海大4年)、鈴木 宏悦(拓殖大3年)

収容柱数：17柱相当(63検体送還)

・第511次 トラック諸島(沈没艦船)現地調査・遺骨収集派遣

期間：令和7年9月23日(月)～10月1日(水) 9日間

参加者：原田 心晴(筑波大3年)

収容柱数：最小個体数8体

・第512次 マーシャル諸島(ウォッゼ環礁)戦没者遺骨収集派遣

期間：令和7年10月14日(火)～10月29日(水) 15日間

参加者：鈴木 宏悦(拓殖大3年)

収容柱数：15柱

・第513次 バングラデシュ戦没者遺骨収集派遣

期間：令和7年11月15日(火)～12月2日(水) 17日間

参加者：阿部 叶芽(上智大4年)、溝部 聖貴(北九州市立大院2年)

収容柱数：19柱

・第514次 パラオ諸島現地調査派遣(第6次)・遺骨収集(第1次)派遣

期間：令和7年12月1日(月)～12月18日(木) 17日間

参加者：今村 奎太(早稲田大4年)、藤原 亜美(皇学館大4年)、藤村 奎杜(大阪経済大)

収容柱数：91柱

・第515次 ソロモン諸島戦没者遺骨収集派遣(第1次)

期間：令和7年12月2日(火)～12月16日(火) 15日間

参加者：岩撫大毅(東京農業大3年)、金田一光春(拓殖大3年)

収容柱数：6柱相当(152検体送還)

・第516次 ギルバート諸島戦没者遺骨収集派遣

期間：令和8年1月14日(水)～2月28日(水) 14日間

参加者：今村 奎太(早稲田大4年)

収容柱数：6柱

・第517次 ミャンマー現地調査・遺骨収集派遣(第2次)

期間：令和8年1月24日(水)～2月4日(水) 11日間

参加者：反町 佳生(理事長)

収容柱数：2柱相当(8検体送還)

・第518次 インド現地調査・遺骨収集派遣(第3次)

期間：令和8年2月8日(日)～2月25日(水) 17日間

参加者：藤谷 健太(大阪経済大1年)、西村 正和(社会人)

収容柱数：2柱

・第519次 沖縄自主派遣

期間：令和8年2月9日(月)～2月18日(水) 10日間

参加者：石山 航（立命大4年）金田一 光春（拓殖大3年）、一瀬彩花（県立広島大3年）、
新井 捷壬（東海大4年）、岩田 優志（日本大4年）、下田 顕正（京都産業大4年）、
下田 百花（拓殖大4年）、高木 咲良（昭和女子大4年）、山口 凌（熊本大4年）、
岩撫 大毅（東京農業大3年）、坂本 優騎（大阪商業大2年）、
片庭 向日葵（明治学院大2年）、新浜 裕汰（工学院大2年）、
谷口 樂（東京都立大2年）、増山 駿佑（拓殖大2年）、
大曾根 蒼仁（二松学舎大1年）、川崎 心優（日本女子大1年）、
島村 樹和（上智大1年）、藤村 奎杜（大阪経済大1年）、山木 大馳（九州大1年）、
山田真大（國學院大1年）

収容柱数：最小個体数12体

・第520次 東部ニューギニア戦没者遺骨収集派遣

期間：令和8年2月13日(金)～2月25日(水) 12日間

参加者：今村 奎太（早稲田大4年）

収容柱数：17柱

・第521次 マリアナ諸島遺骨収集派遣

期間：令和8年2月24日(火)～3月12日(木) 16日間

参加者：新井 捷壬（東海大4年）、谷口樂（東京都立大2年）

収容柱数：43柱

・第522次 ビスマルク戦没者遺骨収集派遣

期間：令和8年2月25日(水)～3月11日(水) 14日間

参加者：藤原 亜美（皇学館大4年）

収容柱数：9柱相当

◆遺骨収集派遣合計

派遣期間合計：199日間

参加者合計：43名

収容柱数／収容数：216柱、34柱相当（223検体送還）および最小個体数20体

政府・自主による未送還遺骨調査派遣 ※次数外

・マリアナ諸島現地調査派遣（第1次）

期間：令和7年4月29日(火)～5月12日(月) 13日間

参加者：吉田 光里（筑波大3年）

収容柱数：3柱

・パラオ諸島現地調査派遣（第1次）

期間：令和7年5月12日(月)～5月27日(火) 15日間

参加者：井科 安加里（東京経済大4年）

収容柱数：17柱

・沖縄PT第1次自主派遣

期間：令和7年5月14日(水)～5月20日(火) 6日間

参加者：反町 佳生（理事長）、平野 醇（副理事長）、加茂 陸己（プロボノ）、石山 航（立命館大4年）、山口 凌（熊本大4年）、鈴木 宏悦（拓殖大3年）、金田一 光春（拓殖大3年）

収容柱数：無し

・パラオ諸島現地調査派遣（第2次）

期間：令和7年6月16日(月)～7月1日(火) 15日間

参加者：反町 佳生（理事長）、藤原 亜美（皇学館大4年）

収容柱数：41柱

・マリアナ諸島現地調査派遣(3次)

期間：令和7年7月27日(日)～8月12日(火) 16日間

参加者：反町 佳生（理事長）

収容柱数：37柱

・マリアナ諸島現地調査派遣(4次)

期間：令和7年8月21日(木)～9月3日(水) 13日間

参加者：今村 奎太（早稲田大4年）、井科 安加里（東京経済大4年）

収容柱数：23柱

・パラオ諸島現地調査派遣(4次)

期間：令和7年9月1日(月)～9月16日(火) 15日間

参加者：反町 佳生（理事長）、松原 加苗（東京学芸大2年）

収容柱数：51柱

・インド現地調査派遣（1次）

期間：令和7年9月7日(日)～9月23日(火) 16日間

参加者：山口 凌（熊本大4年）、大曾根 蒼仁（二松学舎大1年）

収容柱数：無し

・マリアナ諸島現地調査派遣(5次)

期間：令和7年9月11日(木)～9月26日(金) 15日間

参加者：岩田 優志（日本大4年）、谷口 楽（東京都立大2年）

収容柱数：46柱

・沖縄PT第2次自主派遣

期間：令和7年10月3日(金)～10月9日(木) 6日間

参加者：反町 佳生（理事長）、平野 醇（副理事長）、石山 航（立命館大4年）、山口 凌（熊本大4年）、今村 奎太（早稲田大4年）、金田一 光春（拓殖大3年）、片庭 向日葵（明治学院大2年）

収容柱数：無し

・パラオ諸島現地調査派遣(5次)

期間：令和7年10月5日(月)～10月18日(火) 13日間

参加者：阿部 叶芽（上智大4年）

収容柱数：48柱

・インド現地調査派遣（2次）

期間：令和7年11月2日(日)～11月18日(火) 16日間

参加者：大河原 優人（明治大4年）、谷口 楽（東京都立大2年）

収容柱数：無し

・千葉PT派遣（1次）

期間：令和7年11月10日(月)～11月13日(木) 3日間

参加者：平野 醇（副理事長）、今村 奎太（早稲田大4年）、山口 凌（熊本大4年）、岩田 優志（日本大4年）、岩撫 大毅（東京農業大3年）、金田一 光春（拓殖大3年）、佐々木 琉至（国士舘大3年）、一瀬 彩花（県立広島大3年）、片庭 向日葵（明治学院大2年）、大曾根 蒼仁（二松学舎大1年）

収容柱数：最小個体数1体

・パラオ諸島現地調査派遣(7次)

期間：令和8年1月19日(月)～2月3日(火) 15日間

参加者：池田 祥子（社会人）

収容柱数：15 柱

・千葉 PT 派遣（2 次）

期間：令和 8 年 2 月 24 日（火）～2 月 25 日（水） 2 日間

参加者：平野 醇（副理事長）、山口 凌（熊本大 4 年）、金田一 光春（拓殖大 3 年）、佐々木 琉至（国土館大 3 年）、一瀬 彩花（県立広島大 3 年）、片庭 向日葵（明治学院大 2 年）、大曾根 蒼仁（二松学舎大 1 年）、藤村奎杜（大阪経済大 1 年）

収容柱数：無し

◆現地調査派遣合計

派遣期間合計：145 日間

参加者合計：41 名

収容柱数／収容数：280 柱、最小個体数 1 体

◆年度合計

派遣期間合計：344 日間（前年比 93%）

参加者合計：84 名（前年比 111%）

収容柱数／収容数：496 柱、34 柱相当（223 検体送還）、最小個体数 21 体

（合算で前年比 83%）

※収容柱数は、日本側の遺骨鑑定人による遺骨鑑定を経た確定柱数、最小個体数は現地側の遺骨鑑定人による遺骨鑑定もしくは団員による遺骨整理を経た最小個体数を基に算出し、検体送還をした分の遺骨は“柱相当”と表記している。

I-2. 遺骨収集事業総括

令和 7 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響はほぼなくなり、ウィズコロナの風潮が社会全般により浸透した。そのような社会情勢の変化もあり、昨年以上に海外派遣を含めた本格的な派遣再開の一年となった。沖縄での自主派遣も例年通り 1 回実施されたほか、協力団体が沖縄派遣への参加を表明いただき、現地では大人数での収容作業を実施することができた。

また沖縄における積極的な調査を横断的に実施すべく、平野副理事長を長とした「沖縄プロジェクトチーム」を令和 4 年度に発足させ、各年度 2 月の沖縄自主派遣に合わせて、反町理事長、平野副理事長、ほか有志学生らで実際に与那原町や南風原町の調査候補地の現場視察を行い、今後の調査可否の検討中を実施している。その他の調査候補地についても、次年度以降も継続的に調査予定である。

遺骨収集全体の在り方については、3 年前に「戦没者遺骨収集推進法」が、新型コロナウイルスの世界的猖獗に加え、ミャンマーの軍事クーデターやロシアのウクライナ侵攻の影響から、当初計画が著しく停滞していたことを踏まえ令和 11 年まで延長することが国会で可決された。前述の期間延長は歓迎すべきことではあるが、「戦没者遺骨収集等における手順書」内における不足事項 3 点など、解決すべき問題は依然として存在する。令和 7 年度もこれらの改善を最優先に、関係機関には働きかけを一層強める方針である。

II 国際協力事業報告

令和 7 年度は新型コロナウイルス感染症による事業への影響は限定的であったが、遺骨収集の自主派遣の拡大に当法人の人的資源の大半を投入する必要があった為、本格的な国際協力・交流に関する活動を実施することは叶わなかった。ただ、日頃から親交のある全国

ソロモン会からフィリピン・レイテ島への慰霊巡拝への参加勧誘をいただき、令和7年5月9日(金)～5月12日(月)の期間で「戦後80年フィリピン・レイテ島慰霊巡拝」を実施することができた。参加者は今村 奎太、佐々木 琉至、松原 加苗の3名であった。今回の慰霊巡拝は、通常の派遣とは異なり、現地の方々とのコミュニケーションの機会が多く、小規模ではあるが当法人の活動理念である「国際交流」を体現する機会となった。

当法人と縁深い諸外国との相互理解を深める機会とすべく、国際協力・交流に関する活動の場を創出できるよう鋭意努めていく所存である。

Ⅲ－1 各種慰霊行事参加報告

戦艦大和・第二艦隊戦没者追悼式

4月7日(月)に奈良県天理市大和神社にて追悼式が挙行され、学生3名が参列した。

比・ミンダナオ島遺児会慰霊祭

4月12日(土)に千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて慰霊祭が挙行され、当法人からは今村学生代表と松原代表補佐が参列した。

知覧特攻基地戦没者慰霊祭

5月3日(土)に鹿児島県南九州市知覧特攻平和観音堂前にて慰霊祭が挙行され、渡邊優太郎が参列した。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式

5月26日(月)に千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて厚生労働省主催の拝礼式が挙行され、今村奎太学生代表ら学生8名が参列した。

沖縄県全戦没者追悼式

6月23日(月)に沖縄県平和記念公園にて沖縄県全戦没者追悼式が挙行され、学生2名が参列した。

大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会慰霊祭

7月5日(土)に靖国神社境内において、大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭が挙行され、反町理事長と学生ら11名が運営補助として携わり、慰霊祭に参列した。

ビルマ方面戦没者並びに物故者慰霊大法要

7月19日(土)から20日(日)にかけて、和歌山県高野山成福院にてビルマ方面戦没者並びに物故者慰霊大法要が挙行され、松原代表補佐と篠原永子 OG が参列した。

8月15日(終戦の日)の行事

8月15日(金)には、政府主催の全国戦没者追悼式は昨年同様に感染症対策を行ったうえで、

日本武道館に於いて執り行われた。慰霊式典には例年どおり天皇皇后両陛下ご臨席の下、岸田内閣総理大臣をはじめ政府代表者が参集し、当法人からは学生 15 名が参列した。同日には靖国神社境内における英霊にこたえる会主催の社頭広報活動も再開され、今村学生代表と岩撫事務局長が慰霊大祭に参列し、計 51 名を超える学生・OB・OG し靖国カレンダー頒布に携わったほか、靖国神社内で「第十回感謝の心をつなぐ青年フォーラム」が例年通り開催され、学生 5 名が出席し当法人を代表して今村学生代表が提言文を拝読した。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会秋季慰霊祭

10 月 17 日(金)に千鳥ヶ淵戦没者墓苑において財団法人千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会主催による「千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭」が举行され、秋篠宮皇嗣殿下同妃殿下の御台臨の下厳かに行われた。反町理事長と学生ら 6 名が参列した。

全国ソロモン会慰霊祭・祝賀会

10 月 26 日(日)に靖国神社にて全国ソロモン会主催による慰霊祭・祝賀会が举行され、当法人から平野副理事長、学生 3 名が参列した。

終戦八十年記念栃木県戦没者遺族大会

10 月 18 日(土)に栃木県内にて終戦八十年記念栃木県戦没者遺族大会が举行され、三井代表補佐が参列した。

戦後 80 年全国戦没学徒追悼式

10 月 21 日(火)に兵庫県南あわじ市若人の広場公園にて戦後 80 年全国戦没学徒追悼式が举行され、藤村奎杜が参列した。

ソ連抑留戦友・遺族会・東京ヤゴタ会第 29 回鎮魂慰霊祭

11 月 3 日(月祝)に千鳥ヶ淵戦没者墓苑においてソ連抑留戦友・遺族会東京ヤゴタ会 第 29 回鎮魂慰霊祭に举行され、当法人から学生 5 名が参列した。

水戸歩兵第二連隊並びにペリリュー島戦没者合同慰霊祭

11 月 23 日(日)に茨城県護国神社にて水戸歩兵第二連隊並びにペリリュー島戦没者合同慰霊祭が举行され、当法人から学生 4 名が参列した。

JYMA 慰霊祭・活動報告会

3 月 7 日(土)に靖国神社にて、昨年度に引き続き当法人主催の慰霊祭・活動報告会を対面オンライン併用で举行し、理事ら社会人 9 名、学生 33 名をふくむ支援者・関係者ら 120 名が参列した。また活動報告会のゲストスピーカーとして、顧問である山谷えり子参議院議員に登壇頂いた。

ピースリング・オブ・グアム・ジャパン春彼岸拝礼・懇親会

3 月 27 日(金)、ピースリング・オブ・グアム主催の春彼岸法要が千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて

挙行され、片庭学生代表、今村副代表の 2 名が参列して献花を捧げた。

靖國神社の桜の下で同期の桜を歌う会

3 月 28 日(土)に靖国神社にて英霊にこたえる会主催の「靖國神社の桜の下で同期の桜を歌う会」が開催され、学生 4 名が参加し、活動支援を行った。

Ⅲ－ 2 慰霊行事総括

我々と協力関係にある各団体の慰霊祭などは、令和 7 年度は、開催規模がコロナ以前と同程度の本格的な実施・再開がなされた。一方で、令和元年度に旧戦友連から忘年会の開催を託されたが、本年度も開催することができなかった。

多くの団体は我々が「次世代の担い手」として慰霊顕彰活動に務めるものと期待しているものであり、その期待にどう応えるかということを考えなければならない。また、期待される事を待つのではなく、自らが積極的に期待されようと努力し、先達のもつ教を継承していくことを怠ってはならない。

Ⅳ. その他活動報告事項

令和 7 年度も引き続き認定 NP0 法人格取得のため、その準備の一環として会計処理ソフト「Freee」の導入や認定 NP0 化に適した会計処理の徹底のため、江成雅子顧問税理士の指導を受けた。また、組織運営をしていくうえで長年の課題であった業務の効率化を推進する為、業務アプリ構築クラウドサービス「キントーン」を導入し、名簿管理やタスク管理の連携作業を鋭意進めている。

Ⅴ. 慰霊碑保全事業

戦史検定事業

2024 年、当法人の理事長が交代し大規模な体制の変更が行われた。今年度も継続して盤石な組織体制の構築が喫緊の課題であったため、第 13 回戦史検定の開催は見送る方針となった。団体の運営を早急に安定させ、一刻も早く戦史検定事業を再開させるべく、鋭意努力してく所存である。また、第 12 回戦史検定の収益の一部で台湾の慰霊碑修繕を実施予定であったが、台湾国内の情勢の影響もあり現在も未着手であるが、こちらも現在着手に向け鋭意交渉中である。

Ⅵ－ 1 広報活動報告

長島昭久事務所へのご挨拶

時期：5 月 15 日（木）

今村学生代表、岩撫事務局長、松原代表補佐の 3 名が、衆議院第一議員会館の長島明久事務所を訪問し、挨拶・意見交換を行った。

福島のかゆき議員との対談

時期：5 月中旬

平野副理事長と今村学生代表ら 3 名が、衆議院議員会館にて福島のかずゆき議員事務所を訪問し、当法人の活動内容や理念についての説明、意見交換を行った。

日本会議・通常総会にて講演

時期：6 月 18 日（水）

今村学生代表ら学生 4 名が日本会議千代田・港支部を訪問し、通常総会に参加したのち今村学生代表が登壇・講演の機会を頂いた。当法人の活動内容や理念についての説明、意見交換を行った。

クラウドファンディングの実施

時期：6 月 20 日（金）～9 月 7 日（日）

国内最大手のクラウドファンディングのサイト「CAMPFIRE」にて、沖縄派遣を実施するための資金調達を実施した。総勢 100 人の支援者から 1,651,079 円の資金を調達することができた。

山谷えり子事務所への訪問

時期：7 月 29 日（火）

平野副理事長と今村学生代表、松原代表補佐の 3 名が、参議院議員会館の山谷えり子事務所を訪問し、意見交換および顧問就任の打診を行った。

金子恭之事務所への訪問

時期：8 月 6 日（水）

平野副理事長と今村学生代表ら学生 2 名が、衆議院議員会館の金子恭之事務所を訪問し、当法人の活動内容や理念についての説明、意見交換を行った。

泉健太事務所への訪問

時期：8 月 13 日（水）

反町理事長、平野副理事長と今村学生代表ら学生 2 名が、衆議院議員会館の泉健太事務所を訪問し、意見交換および顧問就任の打診を行った。

終戦日慰霊上映『神の島』

時期：8 月 14 日（木）

当法人 OB である谷口広樹氏が監督・脚本を務めた映画『神の島』上映会に学生 7 名が参加し、上映後に当法人の紹介の時間をいただき、意見交換を行った。

京都市中央青少年活動センター

時期：8 月 17 日（日）

関西支部の学生ら学生 3 名が、京都市中央青少年活動センター訪問し、当法人の活動内容や理念についての説明、意見交換を行った。

滋賀県平和祈念館訪問

時期：8 月 20 日（水）

関西支部の学生ら学生 7 名が、滋賀県平和祈念館を訪問し、当法人の活動内容や理念についての説明、意見交換を行った。

姫路市平和資料館 訪問

時期：9 月 16 日（月）

関西支部の学生四名で、姫路市平和関連資料館（兵庫県姫路市西延末）訪問し、職員の方々と当法人の活動内容や理念についての説明、意見交換を行った。

水交会 講演会

時期：9 月 25 日（木）

東京都渋谷区にある水交会ピーターハウスにて、水交会の定例講演会があり、今村学生代表ら学生 3 名が出席し、今村学生代表が講師として登壇した。

平沼正二郎衆議院議員との面会

時期：10 月中旬

平野副理事長と今村学生代表の 2 名が、衆議院議員会館にて平沼正二郎衆議院議員と面会し、当法人の活動内容や理念についての説明、意見交換を行った。

武相高校 講演会

時期：10 月 23 日（木）

神奈川県横浜市内の武相高校にて当法人の学生 3 名が訪問し、当法人の活動内容や理念についての説明と、沖縄戦についての講演会を行った。

全国学生ボランティアフォーラム

時期：3 月 13 日（金）～3 月 15 日（日）

国立オリンピック記念青少年総合センターにて、全国学生ボランティアフォーラムが開催され、今村学生代表ら学生 4 名が参加し、ブースの出典を行った。

武蔵野 トークイベント

時期：3 月 22 日（日）

NPO 法人ピース・リング・オブ・グアム・ジャパン主催の「戦争と平和」をテーマにしたトークイベントがあり、今村学生副代表が登壇・意見交換を行った。

泉健太顧問 挨拶

時期：3 月 24 日（火）

平野副理事長と今村学生副代表の 2 名が衆議院議員会館にて顧問の泉健太衆議院議員と面会し、活動報告を行った。

平和を願い戦没者を慰霊顕彰する国会議員の会

時期：3 月 26 日（木）

山谷えり子顧問からお声がけいただき、平和を願い戦没者を慰霊顕彰する国会議員の会に平野副理事長と今村学生副代表が出席し、現在の遺骨収容を取り巻く課題について発表・問題提起を行った。

福岡資麿参議院議員との面会・要望書手交

時期：3 月 31 日（火）

反町理事長、平野副理事長と片庭学生代表ら学生 2 名が、参議院議員会館にて福岡資麿参議院議員と面会し、現在の遺骨収容を取り巻く課題について説明・遺骨収容に関する広報活動の拡充と科学的鑑定の推進についての要望を行った。

拓殖大学 紅陵祭

時期：11 月 2 日（土）～4 日（月祝）

参加者：

拓殖大学にて紅陵祭が開催され、当法人の広報の為に参加した。

（令和 7 年度は実施したか？高橋理事に要確認）

マスコミ報道

戦後 80 年の節目も相まって、文化放送や NHK 等の映像メディアで当法人が取り上げられたほか、産経・毎日・日経等の全国紙でも大きく取り上げられた。あわせてこれまで機会が得られなかった中日新聞や京都新聞、沖縄タイムス等の地方紙やブロック紙に取り上げられた点も特筆すべきである。

また令和 7 年度は単に” 学生による遺骨収集” という構図でなく、所有者不明土地問題や科学的鑑定の改善など、当法人が使命とする「課題解決」をテーマとして全面に出すことができた。

今後も一層世論へ問えるような訴えかけを継続していきたい。

VI-2 広報活動総括

例年どおり年に数件は講演依頼、取材申し込みがあり、またマスコミに取り上げられる機会があり、派遣応募者、支援者の増大のみならず、当法人の主張を世間へ伝播することに一役買っている。引き続き機会を捉えて積極的な広報活動を行うとともに、マスコミへの積極的な売り込み、SNS、クラウドファンディング活用等を通じて広報をより一層拡充する必要がある。また、団員一人一人が広報マインドを持ち、日常の活動を通じて草の根的に JYMA の宣伝を行い、持続可能な団体存続のためにも根本的な認知度を高める必要がある。何より、一人の行いが JYMA 全体の印象に繋がることを肝に銘じ、外部の方々と接する際には自身の見られ方を常に考える必要がある。

VII 勉強会等自主活動報告

令和 7 年度は学生の自主的発案に基づき行っている自主活動もコロナ渦以前と同程度の開催頻度となった。一般化したオンラインでの行事に加え、対面での行事も開催し活動方法の多様化が見られた。また、本年度は戦後 80 年という節目に合わせて、当法人の礎を築き、様々な困難に直面しながらも活動を継続させるために尽力された諸先輩方と現役学生との交流を目的とした同窓会を開催した。その他、学生からの要望の声はあったものの、従軍経験者からの聞き取りは令和 7 年度は実施できなかったもので、こちらは今後の実施に向けた準備を進める必要がある。

オンライン説明会

時期：随時

派遣参加希望者や入団希望者向けの説明会を、オンラインで随時実施した。対面での実施は無かった。

骨学勉強会

時期：随時

派遣参加予定者や団員向けに、上級学生から骨格概要に関する勉強会を対面・オンライン併用で随時実施した。

骨学（応用編）・GPS 等記録に関する勉強会および戦史勉強会

時期：随時

派遣参加予定者向けに、平野副理事長から左右判別などの骨学勉強会（応用編）および諸課題に関する勉強会を、井上副理事長からは戦史に関する勉強会をそれぞれ対面・オンライン併用で随時実施した。

姫路市平和資料館訪問

時期：7 月 4 日

姫路市平和資料館に関西支部の学生 5 名が訪問し、館内見学・意見交換を実施した。

羽村のお寺で戦後 80 年を想う集い

時期：8 月 17 日

羽村市内の宗禅寺にて開催された戦後 80 年の催しに学生 3 名が参加した。

松本夏合宿の開催

時期：9 月 8 日～9 月 10 日

学生 9 名が長野県松本市内にて戦史の学習と組織内のメンバー交流を目的として夏合宿を実施した。

感動プランニング主催 トークセッション

時期：10 月 9 日

感動プランニング代表の木村克彦氏主催のトークセッションに今村学生代表が出席し、

「世界平和と防衛」というテーマで意見交換を行った。

戦後 80 年 J YMA 日本青年遺骨収集団同窓会

時期：11 月 8 日

東京市ヶ谷にあるアルカディア市ヶ谷にて、戦後 80 年 J YMA 日本青年遺骨収集団同窓会が開催され、卒業生および現役学生含め 80 名以上が参加した。

終戦 80 年記念講演会『「戦争の記憶」をつたえるということ』

時期：11 月 16 日

千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて、講演会が開催され、学生 1 名が出席した。

第 52 回中央防衛セミナー

時期：11 月 18 日

T K P 市ヶ谷カンファレンスセンターにて、第 52 回中央防衛セミナーが開催され、当法人から今村学生代表ら学生 3 名が出席した。

講演会「忘れられた戦争」

時期：11 月 29 日

新宿住友ビルにて記念シンポジウム「忘れられた戦争 南方で戦った兵士たちの足跡」が開催され、当法人から学生 2 名が参加した。

CPAC 講演会

時期：12 月 7 日

東京六本木のハリウッドホールにて国際カンファレンス「CPAC JAPAN 2025」が開催され、平野副理事長と片庭学生が登壇し、講演を行った。

日本遺族会 平和の語り部定期講話会

時期：1 月 11 日

九段会館にて日本遺族会主催の「第 11 回平和の語り部定期講話会」が開催され、学生 4 名が招待・出席し、会の最後に頂いた時間で当法人の活動内容や理念についての説明を行った。

浜松復興記念館 訪問

時期：1 月 12 日

日本遺族会に所属する稲田定彦氏のご紹介で、浜松市内にある浜松復興記念館を今村学生代表が訪問、浜松市遺族会・大石氏と面会し、当法人の活動内容や理念についての説明・意見交換を行った。

ピースリング・オブ・グアム中高生向け勉強会

時期：1 月 31 日

NPO 法人ピースリング・オブ・グアム・ジャパン主催の勉強会が開催され、今村学生代表ら学生 2 名が参加し、遺骨収用を取り巻く現状や課題について講義を行った。

日印協会「天竺茶話会」講演

時期：3 月 10 日

東京・半蔵門にある公益財団法人日印協会の事務所にて「天竺茶話会」が開催され、その会に学生の山口 凌が参加し、当法人の活動内容や理念についての説明・意見交換を行った。

町田稲門会 講演会

時期：3 月 18 日

町田市中央公民館にて町田稲門会主催の「第 5 回 会員のお話を聞く会」が開催され、今村学生副代表と大西宜也 OB の 2 名が講師として登壇し、当法人の活動内容や理念についての説明・意見交換を行った。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会 意見交換会・桜祭り支援

時期：3 月 19 日、3 月 28 日～4 月 5 日

千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて、遺骨収容事業における問題点についての意見交換会が開催され、当法人から 5 名が参加し、意見交換を行った。また、3 月 28 日から 4 月 5 日にかけて開催された「桜祭り」の支援奉仕に延べ 8 名の学生が参加した。

令和 7 年度の事業報告は以上の通り
以上